
風流

SUPY

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風流

【Nコード】

N9498C

【作者名】

SUPY

【あらすじ】

父と家族の風流を巡る考えの違いをユーモラスに書いてみました

おやじはおれに、お前ももうすぐ三十になるのだから風流のひとつも嗜まなければならぬと講釈を垂れた。それでおやじはどんな風流を嗜むかと云うと、近くの川に行つてごろごろとしている石を眺めては、これはなんとも趣があつて風流だ、玄関に飾れば見栄えがよからう等と毎日二三ばかり石を拾つてくる。

おれは学がないから風流と云うのものをよく知らぬ。よくは知らぬが大体はじいさんが頭を並べて妙な調子で歌を読んでみたり古臭い茶碗をありがたがつたりするもので、散歩ついでに拾つてくるものだとは思わなかつた。

おやじは毎日風流を拾つて来ては盆に乗せて、それを家中に飾つて眺めてわびさびだと云う。母は漬物石にもならないからどうせならもつと大きくつて重たいものを選んで来ればいいのにと云う。

実際漬物石を毎日持つて来られても石垣を組んでそれで以て万里の長城を建てるわけでもないだろうし、まさか表に石を並べて漬物石屋を開くわけにもいくまい。結局は大きからうが小さからうが煮ても焼いても石だから、同じ拾つて来るなら鼠をとつてくる猫の方が利口に見える。

母は風流と云うものがさっぱり理解出来ぬようである。おやじは母は女だから風流がわからんのだと云うが、男のおれにもわからない。おやじは苔のこびりついたものまでよく持つて帰ってくるものだからこれでわかれと云う方が酷なものだ。

そして渋い顔をする母に向かつておやじは澄ました顔でこの苔が風流なのだと云う。

おやじは毎日石を拾う。そうして家の中には石が溜まる。母はせつせとおやじが吟味して持ち帰った風流を、溜まつてくる度に庭に捨てる。猫の額程しかない庭にはおやじの集めた風流で山ができる。風流とは全く以て不思議なもので、一度庭に捨てるとありがたみ

と云うものが綺麗さっぱり消えて無くなるようである。おやじは庭に石が溜まる度に袋に詰めて川に捨てに行く。そうしてまた風流だと云ってその石を拾って来る。

風流とは奥が深過ぎて底が見えそうにもないから、おれには風流はまだ早いと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9498c/>

風流

2011年1月16日02時56分発行